

☆会員の高齢化に対する具体的活動への取り組み

高齢化が進んでいる当町会では、町会活動も従来の「防犯・防災・環境への取り組み」という地域活動だけでなく、「高齢・体調不良・家族の介護等で町会活動が出来ない」というような①世帯内に生じる課題を応援する活動も、今後の町会活動にとって重要となってきた。この状況に伴い、迅速に②「高齢化地域の町会及び役員の在り方・人数、行政からの委嘱委員の整理・統合などを考える時期ではないか」という課題への対応も必要となる。そこで、町会活動の基本である『会員相互の親睦と助け合い』を今後とも長く続けるために、平成30年度町会活動方針(重点施策)にプラスして、上記の①②に取り組みたい。

役員以外の方にも声を掛けて、皆んなで、考え、楽しみながら、ゆるくチャレンジしたい。
※役員の方に「新規に一方向的に」仕事を増やすことは一切なし。希望者のみで取り組む。

①の課題では、『会員相互の親睦と助け合い』を行うには会員個々の「健康長寿」が重要であるが、内閣府の「高齢社会白書」のデータから推計すると、【2025年】には75歳以上で要支援・要介護の認定者が4割を超えるという。(庄戸一丁目に置き換えると137人)。そこで町会活動のためだけでなく、本人の負担軽減、家族の負担軽減、また高齢世代だけでなく若い世代の負担軽減のためにも、「非健康年数と言われる 9年間～12年を如何に過ごすか」、まずは「如何に健康長寿を保つか」を町会が応援したい。

・非健康年数＝平均寿命－健康寿命＝9年～12年 (平成28年版「高齢社会白書(内閣府)」より)

②の課題では、5町会協議会に対して「高齢化地域の町会活動に対応して、発想を変え、話し合いを重ねて案を練り、纏まって行政と交渉を重ねられるように働きかけたい。

考えるポイント(1)「何をすべきか? 何が出来るか?」

①「健康長寿」に役立つこと、「健康長寿」を応援すること

例①運動器症候群(通称:ロコモ、要介護要因第1位、25%)の予防・治療方法の紹介

例②外出先紹介: 美術館/博物館/旅行/イベント・行事(市・区主催)等の情報提供

②会員家庭に役立つ「病気の予防・対策」情報、支援・介護情報、メンタルケア情報等の提供

・高血圧、脂質異常症、糖尿病、心疾患、心不全、骨粗鬆症、認知症等の情報

・介護Q&A、介護のこつ(動画)、介護保険、介護サービス、福祉機器、等の情報、

③ 会員個人単位の自由意思による「日常的な交わり、親睦・双方向コミュニケーション」の場所を提供(日常的な娯楽・趣味レベル) ※次頁「高齢社会白書(内閣府発行)」の中の⑦参照。

④5町会協議会で議論し合意を得た上で、各町会に対して「高齢化地域の町会活動/合同検討会」設立を働きかけること。

考えるポイント(2)「どうすれば出来るか」

①「町会活動とインターネット活用」研究会の立ち上げ【町会役員有志+一般町会員有志】

・市や区と連携している「ご近所(半径800m~1500m限定)SNS(パソコン+スマホ)」の研究

例:「マチマチ」:自治体(渋谷区、豊島区、文京区、港区、千葉市、水戸市等)と契約するほか、都市部を中心に約7800の地区で展開中。栄区との協働も視野に入れる。

・インターネット上に「健康情報&交流(画像付会話板、掲示板)サイト」設置、活用

※サイトの位置付け=町会員を応援する「非公式.サイト」(町会から意見・要望を受けるが、掲示板などでのトラブル発生時の町会の責任問題回避のため、町会は「協力」に留める)

☆サイトの制作・運用はボランティアが無償で行なう。

②「町会ふれあい行事世話役会」(仮称)の立ち上げ【町会役員有志+一般町会員有志】

例:・既存の各種同好会・サークルの参加・運営の応援、新規設立応援、

・町会ふれあい行事(例:カラオケ大会、ボーリング大会 麻雀大会、等)の実施

※趣味・娯楽レベル。民間施設を活用し、1~2か月に1回の開催を目指す。

■庄戸一丁目・人口構成

国勢調査/2015年10月1日時点)総数は「年齢不詳:66」を修正後

	人数	構成比		人数	構成比
総数	557	100%			
0~24歳	43	7.7%			
25~64歳	187	33.6%			
65~74歳	206	37.0%			
75~84歳	89	16.0%			
85~94歳	29	5.2%			
95歳~	3	0.5%			
65歳以上	327	58.7%	(2018年推定)	346	62.1%
75歳以上	121	21.7%		181	32.5%
85歳以上	32	5.7%		50	9%
平均年齢	60.1			63.1	

■庄戸一丁目・類型別世帯数(国勢調査/2015年10月1日時点)

	世帯数	構成比
総数	244	100%
親族のみの世帯	204	84%
単独世帯	40	16%
6歳未満がいる世帯数	8	3%
18歳未満がいる世帯数	21	9%
65歳以上が居る世帯数	192	79%
65歳以上のみの世帯数	123	50%
65歳以上夫婦のみの世帯数	87	36%
65歳以上の単独世帯数	30	12%
他	6	2%

参考:「平成28年版高齢社会白書(内閣府発行)」からの引用 ※(6)を除く

(1) 非健康年数(2015年現在)

	男性	女性
平均寿命	80.2歳	86.6歳
健康寿命	71.1歳	74.2歳
非健康年数	9.02年	12.4年

(2) 65歳以上で健康上の問題で日常生活に支障が出ている割合

	男性	女性	総数
【2013年現在】	24.1%	27.1%	25.8%

(3) 介護保険制度サービスを受けた人の割合

	男性	女性	総数
(65歳以上、2015年1月現在)	29.2%	70.8%	100.0%

(4) 要支援・要介護の認定者(2014年現在)

	要支援	要介護	合計	(予想)
65歳~74歳	1.4%	3.0%	4.4%	2020年→36.6%
75歳以上	9.0%	23.5%	32.5%	2025年→41.8%
庄戸一丁目	39人	137人		

(5) 65歳以上の認知症の割合(予想)

	2015年	2020年	2025年	2030年
全国	16.0%	18.0%	20.6%	23.2%
庄戸一丁目	52人	65人	77人	91人
65歳以上人数	327人	359人	376人	393人

(6) 全がん年齢別罹患リスク(2011年)

出典:(公益財団法人)がん研究振興財団

	50~59歳	60~69歳	70~79歳
男性	7.8%	21.3%	41.3%
女性	10.9%	18.5%	28.6%

(7) 近所の人との付き合い方(60歳以上、2015年現在)

	日本	アメリカ	ドイツ	ウェーデン
病気の時に助け合う	5.9%	27.0%	31.9%	16.9%
相談したり、されたり	18.6%	28.3%	48.3%	31.2%
物をあげたりもらったりする	41.9%	18.4%	14.3%	24.3%
外でちょっと立ち話をする	67.3%	45.9%	38.7%	89.7%

☆ 会員の高齢化に対する具体的活動への取り組み ☆

高齢化が進んでいる当町会では、町会活動も従来の「防犯・防災・環境への取り組み」という地域活動だけでなく、「高齢・体調不良・家族の介護等で町会活動が出来ない」というような(1)世帯内に生じる課題を応援する活動も、今後の町会活動にとって重要となってきた。

この状況に伴い、迅速に(2)「高齢化地域の町会及び役員の在り方・人数、行政からの委嘱委員の整理・統合などを考える時期ではないか」という課題への対応も必要となる。

そこで、町会活動の基本である『会員相互の親睦と助け合い』を今後とも長く続けるために、平成30年度町会活動方針(重点施策)にプラスして、上記の(1)(2)に取り組みたい。(承認)

役員以外の方にも声を掛けて、皆んなで、考え、楽しみながら、ゆるくチャレンジしたい。

※役員の方に「新規に一方向的に」仕事を増やすことは一切なし。希望者のみで取り組む。

(1)の課題では、『会員相互の親睦と助け合い』を行うには会員個々の「健康長寿」が重要であるが、内閣府の「高齢社会白書」のデータから推計すると、【2025年】には75歳以上で要支援・要介護の認定者が4割を超えるという。(庄戸一丁目に置き換えると137人)。

そこで町会活動のためだけでなく、本人の負担軽減、家族の負担軽減、また高齢世代だけでなく若い世代の負担軽減のためにも、「非健康年数と言われる 9年間～12年間で如何に過ごすか」、まずは「如何に健康長寿を保つか」を町会が応援したい。

※非健康年数＝平均寿命－健康寿命＝9年～12年 (平成28年版「高齢社会白書(内閣府)」より)

(2)の課題では、「高齢化地域の町会活動」に対応して、発想を変え、話し合いを重ねて案を練り、出来れば5町会協議会と共に纏まって行政と交渉出来ることを目指したい。

考えるポイント：「何をすべきか？ 何が出来るか？」

- (1)◎「健康長寿」に役立つ情報、「病気の予防・対策」情報、支援・介護情報、等の提供
例①運動器症候群(通称:ロコモ、要介護要因第1位、25%)の予防・治療方法の紹介
例②外出先紹介: 美術館/博物館/旅行/イベント・行事(市・区主催)等の情報提供
例③高血圧、脂質異常症、糖尿病、心疾患、心不全、骨粗鬆症、認知症等の情報
例④介護Q&A、介護のこつ(動画)、介護保険、介護サービス、福祉機器、等の情報、
◎ 個人単位の自由意思による「日常的な交わり、親睦・双方向コミュニケーション」の場所の提供(娯楽・趣味レベル) ※次頁「高齢社会白書(内閣府発行)」の中の⑦参照。

- (2)・「高齢化地域の町会及び役員の在り方」を「いろいろな角度から研究する検討会」の立ち上げ。検討案が出来次第、5町会協議会や栄区、横浜市と協議を開始する。

考えるポイント:「どうすれば出来るか」

- インターネット上の「庄戸1丁目Community site」(健康情報提供&画像付対話板、サークル掲示板等で、庄戸1丁目住民の”親睦と助け合い、健康長寿”を応援するWebサイト)を活用
 - ※サイトの位置付け=町会員を応援する「非公式.サイト」(町会から意見・要望を受けるが、掲示板などでのトラブル発生時の町会の責任問題回避のため、町会は「協力」に留める)
 - ☆サイト(パソコン版+スマホ版)の制作・運用はボランティアが無償で行なっている。
- 「町会ふれあい行事検討会」(仮称)の立ち上げ【町会役員有志+一般町会員有志】
 - ・既存の各種同好会・サークルの参加・運営の応援、新規設立応援、
 - ・町会ふれあい行事(例:カラオケ大会、ボーリング大会 麻雀大会、等)の実施
 - ※趣味・娯楽レベル。民間施設を活用し、1~2か月に1回の開催を目指す。
- 「町会活動とインターネット活用」研究会の立ち上げ【町会役員有志+一般町会員有志】
 - ・市や区と連携している「ご近所SNS(パソコン+スマホ)(半径800m~1500m限定)」の研究
 - 例:「マチマチ」:自治体(渋谷区、豊島区、文京区、港区、千葉市、水戸市等)と契約するほか、都市部を中心に約7800の地区で展開中。1丁目と栄区との連携も視野に入れたい。

■庄戸一丁目・人口構成

国勢調査/2015年10月1日時点(総数は「年齢不詳:66」を修正後)

	人数	構成比		人数	構成比
総数	557	100%			
0~24歳	43	7.7%			
25~64歳	187	33.6%			
65~74歳	206	37.0%			
75~84歳	89	16.0%			
85~94歳	29	5.2%			
95歳~	3	0.5%			
65歳以上	327	58.7%	(2018年推定)	346	62.1%
75歳以上	121	21.7%		181	32.5%
85歳以上	32	5.7%		50	9%
平均年齢	60.1			63.1	

■庄戸一丁目・類型別世帯数(国勢調査/2015年10月1日時点)

	世帯数	構成比
総数	244	100%
親族のみの世帯	204	84%
単独世帯	40	16%
6歳未満がいる世帯数	8	3%
18歳未満がいる世帯数	21	9%
65歳以上が居る世帯数	192	79%
65歳以上のみの世帯数	123	50%
65歳以上夫婦のみの世帯数	87	36%
65歳以上の単独世帯数	30	12%
他	6	2%

参考:「平成28年版高齢社会白書(内閣府発行)」からの引用 ※(6)を除く

(1) 非健康年数(2015年現在)

	男性	女性
平均寿命	80.2歳	86.6歳
健康寿命	71.1歳	74.2歳
非健康年数	9.02年	12.4年

(2) 65歳以上で健康上の問題で日常生活に支障が出ている割合

	割合
男性	24.1%
女性	27.1%
総数	25.8%

(3) 介護保険制度サービスを受けた人の割合

	割合
男性	29.2%
女性	70.8%
総数	100.0%

(4) 要支援・要介護の認定者(2014年現在)

	要支援	要介護	合計(予想)
65歳~74歳	1.4%	3.0%	2020年→36.6%
75歳以上	9.0%	23.5%	2025年→41.8%
庄戸一丁目	39人	137人	

(5) 65歳以上の認知症の割合(予想)

	2015年	2020年	2025年	2030年
全国	16.0%	18.0%	20.6%	23.2%
庄戸一丁目	52人	65人	77人	91人
65歳以上人数	327人	359人	376人	393人

(6) 全がん年齢別罹患リスク(2011年)

	50~59歳	60~69歳	70~79歳
男性	7.8%	21.3%	41.3%
女性	10.9%	18.5%	28.6%

(7) 近所の人との付き合い方(60歳以上、2015年現在)

	日本	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
病気の時に助け合う	5.9%	27.0%	31.9%	16.9%
相談したり、されたり	18.6%	28.3%	48.3%	31.2%
物をあげたりもらったりする	41.9%	18.4%	14.3%	24.3%
外でちょっと立ち話をす	67.3%	45.9%	38.7%	89.7%

高齢化が進んでいる当町会(65歳以上が62%、全国平均は28%)では、町会員個々の「健康長寿」対策が重要となってきています。内閣府「高齢社会白書」のデータからの推計では、【2025年】には75歳以上で要支援・要介護の認定者が4割を超えるといいます。本人の負担軽減、家族の負担軽減、また高齢世代だけでなく若い世代の負担軽減のためにも、「非健康年数と言われる、9年間～12年間で如何に過ごすか」、「如何に健康長寿を保つか」に皆で一緒に取り組みましょう。
※非健康年数＝平均寿命－健康寿命＝9年～12年（平成28年版「高齢社会白書(内閣府)」より）

平成25年の介護が必要となった主な原因の「高齢による衰弱」、「骨折・転倒」、「関節疾患」を運動器が一番多い原因となります。また、要支援1では52.1%、要支援2では49.6%と約半分を占めており、運動器の障害をきっかけに日常生活の自立度が下がりやすいことがわかりま

厚生労働省 国民生活基礎調査 平成25年度

要介護度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合

)

器の障害としてまとめると全体の36.1%で、